

第46号
2022年 3月31日

○発行
650-0004
神戸市中央区中山手通
7丁目25-38
神戸真生塾広報誌編集係
TEL (078)341-5897
FAX (078)341-8239
E-mail:kouhou@kbshinsei-j.org

○振替口座
郵便振替01100-8-18680

「自立支援の推進に向けて」

自立支援担当 網谷 仁志



題字 斉藤 敬好

社会福祉法人

神戸真生塾

令和元年度から神戸市の児童養護施設に「自立支援担当職員」の配置が始まり、幸いな事に自立援助ホーム「子供の家」での勤務経験がある私に、その職務を与えて頂きました。「何から？何を？」と、まだまだ手探りの中ですが、子どもにとって必要な事は？子どもにとってプラスになる事は？を念頭に置き、これからも職務に努めていきたいと思えます。

令和元年度から神戸市の児童養護施設に「自立支援担当職員」の配置が始まり、幸いな事に自立援助ホーム「子供の家」での勤務経験がある私に、その職務を与えて頂きました。「何から？何を？」と、まだまだ手探りの中ですが、子どもにとって必要な事は？子どもにとってプラスになる事は？を念頭に置き、これからも職務に努めていきたいと思えます。

令和元年度から神戸市の児童養護施設に「自立支援担当職員」の配置が始まり、幸いな事に自立援助ホーム「子供の家」での勤務経験がある私に、その職務を与えて頂きました。「何から？何を？」と、まだまだ手探りの中ですが、子どもにとって必要な事は？子どもにとってプラスになる事は？を念頭に置き、これからも職務に努めていきたいと思えます。

令和元年度から神戸市の児童養護施設に「自立支援担当職員」の配置が始まり、幸いな事に自立援助ホーム「子供の家」での勤務経験がある私に、その職務を与えて頂きました。「何から？何を？」と、まだまだ手探りの中ですが、子どもにとって必要な事は？子どもにとってプラスになる事は？を念頭に置き、これからも職務に努めていきたいと思えます。



神戸真生塾は長期化する新型コロナウイルス禍において131年目の歩みを始めます。

新しい年度も社会の変化をにらみつつ「新しい社会的養育ビジョン」に基づいて全職員が神戸真生塾の運営・発展の担い手として、主体的意識と責任を持ちつつ、子どもの養育・支援にあたっては、最善の利益を常に考慮し、人権擁護についても意識し、時には子どもたちの代弁者として権利を守る存在として日常の営みを行います。

(1) 乳児院 (真生乳児院)

今年度も定員30名での事業を推進し、これまで通り1クラス5名で2クラスを1ユニットとした、3ユニット(計30名)の小規模グループ体制で運営します。このうちの1クラスは乳児早期の児の安全と感染防止を目的として、0ヶ月〜4ヶ月未満の乳児のみとします。保育士・看護師・管理栄養士・調理員、および家庭支援専門相談員(FSW)、里親支援専門相談員、

育児指導担当職員、家族療法担当職員、個別対応職員、臨床心理士を配置して、子どもたちにとって入所から退所にいたるまでの期間を継続した養育が行われるように特に配慮しています。

(2) 児童養護施設 (神戸真生塾)

(神戸真生塾)

今年度より初めて年間聖句を設けます。21年度の年間聖句はコリントの信徒への手紙二一章10節の『わたしたちは神に希望をかけています。』としました。この聖句の記載されている一章3節〜11節で描かれている共通のキーワードは「苦難」。「慰め」。「希望」の3つです。「苦難の中にある慰め」「苦難の共有が慰めの共有となる。」ということがこの聖書の中で描かれています。入所している子どもたち、新たに入所する子どものほぼ全員が「心と身体に深い傷を持っています。」その傷の苦しみが子どもたちとの何気ない日常の営みの中で随所に現れてきます。その苦しみを我々が聴き、苦難を共有することによって慰めの共有となり、希望へとつながっていきます。そして、同じく四章16節に描かれているように『だから、わたしたちは落胆しません。』の言葉通り、前を

(3) 児童家庭支援センター (神戸真生塾)

(神戸真生塾 子ども家庭支援センター)

向いて進んでいきたいと思いません。勿論、祈りを大切にしつつ、どの様に理論立てて実践していくのか問いながら必要な学びの機会も設けていきます。

2017年に「新しい社会的養育ビジョン」が取りまとめられ、その後混乱もありながら都道府県社会的養育推進計画が策定されました。神戸市においても、社会的養育の充実や家庭養育優先を推進するために、市区町村、児童相談所、施設、フォスターリング機関等で体制強化や充実、改革が図られ始めている。そのような中でも児童虐待通告件数は、全国的にも神戸市においても増加し続け、児童相談所も区役所も事後対応に追われているのが現状であります。児童相談所への虐待通告があつたケースの約97%が家庭復帰している中で、虐待予防や再発防止のための在宅支援の充実が重要となつていきます。しかし、相談支援だけでなく社会資源を結び付けたり見守りのネットワークを形成するソーシャルワーク機関は少なく、土日や夜間にも対応する児童家庭支援センターは重要

な役割を担っている。当センターにおいては、児童相談所や各区の要対協、学校や保育所等だけでなく、コロナ禍でスタートさせた食支援で繋がった子ども食堂や支援団体、地域の方々等の様々な繋がりが広がっています。その繋がりを活かした支援をさらに展開させていきたいです。2021年度の研修年間テーマを「不登校」とし、付随するネグレクトやゲーム依存、ヤングケアラー等の課題に対しても学びを深めていきたいと思えます。

(4) 幼保連携型認定こども園 (真生さらさら保育園)

(真生さらさら保育園)

幼保連携型認定こども園に移行して4年目を迎えます。2020年度はコロナ禍の中で保育ということ、感染予防に十分に留意しながら、今までの保育を見直す機会となりました。まだコロナ禍が続きますが、安心で安全な保育を進めていきます。20年度より、旧清風幼稚園の1階部分の改修工事が始まり、2021年度から待機児童解消として、定員増での保育がスタートします。

神戸市内、中央区はまだまだ待機児童が多く、特に神戸市立山の手小学校区の子どもが増え

(5) 児童自立生活援助事業 (神戸市児童自立援助ホーム)

(神戸市児童自立援助ホーム 子供の家)

ており、神戸市からの要望もあり、定員増が期待されています。単なる利用定員の増を考えるとではなく、地域の子育て支援センターとしての役割を中心に地域のニーズに添えるべく、将来像を検討していきます。合わせて卒園児及び地域の児童の居場所として学童保育も併設予定です。

神戸市から指定管理業務として自立援助ホームを運営して2021年度で10年目になりました。手探り状態で始めましたが毎年10人前後の入退所児・数十人の入所打診児童と関わってきました。その一人ひとりがホームと出会えて、関わられて良かったと思えているのか、今後子ども達と共に成長し続け、たくさんの子ども達の安心と笑顔を作っていきます。

また、2021年度からも近畿自立援助ホーム副代表として再任いたしました。近畿圏内の22ホームの横の繋がりが、全国約200ホームとの連携を念頭に、神戸市及び関連機関との協力体制を強化し、自立援助ホームの認知度を高めていきたいと考えています。

児童養護施設

神戸真生塾

退所する ことからもから

T・I くん

私は、今年度で施設を退所します。神戸真生塾からの紹介を受け、内定をもらい、4月からは、株式会社ナカ建商で働きます。

神戸真生塾に来てから、9年間様々な事がありました。

高校は、村野工業高等学校に進学し、電子科学科で専門的な知識を多く学びました。学んだ事は、これからの就職先での仕事内容にも活用して行けると思います。

施設では、季節ごとの行事や多くの招待行事で様々な体験をすることが出来ました。

コロナ禍で最近は無いです。が、創立記念お祝い会では過去

に退所した人たちが、施設に来て職員と話をしているのを見た事があります。また、季節の行事でも納涼大会等で、退所した人が施設に来て、新生活について話しているのを見た事もあります。今までは、その話を聞く側でしたが、これから、私は新しい環境で生活していく事になります。

新しい環境での生活は、今まで体験することが無かったような、初めての事が多くあり、働きのながらの一人暮らしとなりま。新しい生活に、分からないことや困難な事もあると思いますが、今まで施設の生活では体験する事が無かった事に挑戦できるような事等、新たな生活への期待もあります。

今は、コロナ禍で少し先もどうなるか不安が多い世の中ですが、入所している子ども達と、神戸真生塾の職員も体調に気を付けて、大変な事もあると思いますが乗り越えて行つて下さい。

S・N さん

真生塾の思い出
神戸真生塾の行事といえば、納涼大会です。お宝市が好きです。掘り出し物を買って嬉しかったです。出店では、かき氷が好きでした。特にブルーハワイが好きでした。

琵琶湖キャンプの思い出は、小さい時は、上のお兄ちゃんに湖によく投げられていたので怖かったです。夜の肝試しは、ビビりだったので行けなかつたです。

お部屋でもいろいろなところに出かけました。カラオケ、映画、ボーリング、姫路セントラルパーク、ゲームセンターなどに行きました。ボーリング以外は、どれも楽しかったですが、特に楽しかったのは姫路セントラルパークです。フリーホールに乗りました。待っている間は、ドキドキしましたが乗った瞬間で終わっていました。一番好きなアトラクションはバイキングでした。また友だちを誘って行きたいです。

今まで家に帰りたいと思つたこともあつたけど我慢していま

A・G さん

した。大好きなアイドルに元気をもらつてアイドルの話をお兄さんお姉さんに聞いてもらつて、興味を持つてくれて嬉しかったです。

私は、ちょっと違う変なところで笑つちゃう癖があるのでそれをなくしていきたいと思えます。でも笑顔がかわいいねとお兄さんやお姉さんが言ってくれるので笑顔を忘れずに頑張りたいです。

これから私は、働きます。自分のお給料でアイドルのライブに行くのが夢です。

私は幼児の頃から神戸真生塾で生活をしてきました。その時間はとても長いけれど、今思うとほんの一瞬の時間にも感じます。施設職員の方には言葉で表しきれないほどの感謝の気持ちでいっぱいです。

今まで沢山の悩みや不安や相談、他愛のない話をいつも聞いてくださり向き合つてくれました。私の立場になつて考えてア

しい言葉を掛けてくれました。しかしその優しさに甘えて、職員の方に八つ当たりをしてしまつたり、迷惑を沢山かけて、困らせてしまうことも多々ありました。それでも職員の方は私に沢山の愛情を注いでくれ、育てて下さいました。

神戸真生塾には様々なイベントが毎年あつて、写真をアルバムに残して下さっているおかげで、幸せだったことをとても感じます。日々の何気ない日常も私の中ではとてもかけがえのない思い出です。

私の将来の夢は保育士になることです。私を育てて下さつた職員の方々に子どもに沢山の愛情を注ぎ、優しく包み込んであげられるような保育士になりたいです。そんな夢をくれた神戸真生塾の職員の方に感謝しています。

神戸真生塾はとても温かく、居心地の良い場所でした。そんな温かさや安らぎがある家庭を将来は築きたいです。今までもこれからも私の心の拠り所は神戸真生塾です。

本当にお世話になりました。ありがとうございます。

クリスマス祝会



本年度もイエス・キリストのご生誕をお祝いする祝会は感染症予防の為神戸真生塾の子どもと職員のみでのお祝いとする事となりました。

前年度は館内放送でのお祝いをし、今年も変わらず全員の集合は出来ない状況の中ではありましたが、今年新たな試みとして、タブレットを活用しオンラインでの実施を企画し、全員の顔が見える形でのお祝いを計画しました。学校でも一人一人タブレットが導入され日々の学習や授業にも活用されている中、神戸真生塾でも各部屋に導入され、操作は慣れない中ではあります。ですが試行錯誤しながら日々活用しています。そして今回、様々な制限がある中どうしたら子どもたちがより楽しめるだろうか、感染対策をとりながらどの



ようにお祝いをしようか、色々企画を練り考えました。

当日、礼拝ではキャンドルサービス、聖書拝読を今年度退所となる高校3年生の2名がお兄さんお姉さんらしい頼もしい姿でやり遂げました。祝会では全員で楽しめるゲームを行いました。まずは大人気のビンゴゲームです。子どもも大人も参加し、司会者の言う数字を熱心に聞いていたり、子どもよりも喜ぶ職員の姿もあつたりと、とても楽しむことができました。図書カードやおもちゃ、文房具やお菓子等の景品の中で好きな物をそれぞれが選びとても盛り上がりしました。次はパスルゲームとクイズです。会の前に各部屋にパズルのピースを隠してお



り、それをお部屋のメンバーで協力して探し出し、集めたピースでイラストを完成させました。そのイラストを全部屋分繋ぎ合わせ、一つの大きなクリスマス木のイラストを完成させました。ホールにお部屋で出来たパズルを持ってきてもらい、クイズに答えます。『トナカイは何頭？』『クリスマスツリーは何の木？』『サンタさんはどんな笑い声？』等のクイズで意見が割れながらも和気あいあいとした雰囲気の中みんなクイズに答えました。その後サンタさんの登場！目をキラキラさせながらゆつくりサンタさんに近づい



て話しかけている幼児さんの姿はとても微笑ましいものでした。サンタさんから素敵なおやつリュックのプレゼントを貰い、みんなで写真撮影をし、一番笑顔の溢れる瞬間でした。

子ども達の交流は出来ませんでした。例年の会同様、オンラインにて進行していくプログラムではあったのですが途中、残念ながら機材トラブルで思うようにうまくいかない難しい場面もありました。しかし幼児さんも小学生も中学生も職員も全員が、クリスマス祝会を通して一緒に楽しみながらイエスキリストのご生誕をお祝いする事が

出来たのではないかと思います。最後になりましたが、今のご時世皆様にお越し頂くことが出来ない現状に寂しさを感じますが、皆さまのご支援に日々支えられながらこのような会も実施出来ていること感謝いたします。来年度は皆さまと共にクリスマスのお祝いが出来ることを楽しみにしています。

菊地なつき



子ども達に

Q&A

コロナ禍になり、子どもたちには何かと我慢を強いられる状況が続いています。しかし、「マスクがしんどい」「息が苦しい」と答えた彼らも毎日欠かさずマスクをし、下校すると洗面所に向かい、子どもたちなりにしっかりと「自分たちに来る事」を考え実行しているように感じます。これからの見通しが立たない情勢に焦りや不安を覚えることもしばしば……。しかし、

こうして子どもたちと過ごし彼らの様子を見てみると大人も踏ん張らんと！と気を奮い立たせる思いにさせてくれます。

何度も感染の波が続いているこの約2年、数々の学校行事が中止・延期・規模縮小となり、楽しみにしていた行事が……と肩を落として下校してきた子どもたちの様子を何度も目にする2年間でした。仕方がないと分かっていたながらも今しかない貴重な学生生活が期待とは違っているのだから現状に私たち大人は歯がゆい思いを噛みしめています。その一方で、必然的に

室内で過ごす時間が増えた事により、子どもたちとのコミュニケーションの時間がより濃密なものになった、という嬉しい変化もありました。今回のように子どもたちの思いに耳を傾けてみると、大人が思っている以上に彼らは遅く、この社会状況に負けず成長を重ねているのだと感嘆しました。

まだまだ予断を許さない状況ではありますが、どこかにホッと一息つける瞬間を見つけ、マスクを外して健やかにお会いできる日を楽しみに、みんなで乗り切って行けたらと願っています。

森田 結衣



Q 学校はどんな風に変わった？

A 休み時間が短くなった
密にならないよう遊ぶ場所が決まった
行事が寂しくなった

Q お出かけができない間、お部屋でしていたことは？

A アニメを見る
ゲームをする
バドミントン
フリスビー

Q コロナでどんなことがしんどい？

A マスクで息が苦しい
学校の授業が忙しくなった
思いっきり遊びづらい、
交流の制限

Q コロナが落ちついたらどんなことがしたい？

A 友達の家遊びに行きたい
地域の子たちとも気にせず遊びたい

Q 感染症対策において自分たちで気を付けている事は？

A 手洗い
マスクをつける
顎マスクをしない
距離を取る

じぶものつぶやき

A 君が寝る前に「おやすみ」と言い、「おやすみ」と返したが「寝る前にお茶飲まへん」と。何と聞こえたのか聞くと「お茶のみ。」に聞こえたみたいです。
(A君・小2)

映画チャンネルを見ていたMちゃん。
「これってしまね？」と。
しばらく考えてから「シネマのこと？」と聞くと「そうそれ！」と笑っていました。
(Mちゃん・小4)

昼食のお好み焼きを焼いている時、豚肉を見て「その肉って神戸ギユウフ？」と言ったので、保育士が何の事？と聞くと。ニヤニヤしながら「神戸牛と神戸ビーフが混ざっちゃった。」
(S君・9歳)

保育園で国の勉強をしているところ、夕食時「アメリカとアフリカとかの中にピーマンってある？」と。ピーマンはお野菜だよ。
(Rちゃん・5歳)

「今日の給食ミートスカベツキーやったよ」と。それは、ミートスパゲッティだね。
(M君・5歳)

「バイキン入ったら膿むから綺麗に洗いよ！」という会話を聞いていたTくん。
「何を産むん？」と不思議そうにしていた顔が可愛らしかったです。
(Tくん・小6)



乳児院 真生乳児院



令和2年からはじまった新型コロナウイルス感染症、子ども達は一年を通じて毎日毎日、訳も分からずに窮屈な生活を強いられてきました。そんな中でもいつもニコニコと笑顔を返してくれる子ども達に何かできることはないかと、職員からも「いちご狩り」への多くの声があり、院長の許可を得て、各クラス単位での計画が実施されました。

春の陽気に誘われてひまわり組はこども2名、職員2名の計4名だけの寂しい参加となりましたが、和気あいあいと北区二郎へ行きました。二人ともお出かけはほぼ初めてでしたが、行きの車内でも歌をうたい、トンネルやバスや大きなトラックを見て、楽しみながらのドライブ、何もかもが新鮮に見えたようで目が釘付けになっていました。到着してからハウスの中

へ。そこには見たことのない、たくさん大好きないちご……。 「いちごー！」と4人ともにテンションが上がりました。

小さな子ども達の手を余るほどの、大きないちごたち。「むぎゅってしていいよ」と教えるのと、いちごを握りつぶさんばかりの力でもぎとりすぐにそのまま口のなかへ。

「おいしい」と何度も何度もたべました。いちご畑のおじさんにももらった器に山盛り入れてそれでもまだ、もつといちごをとりました。いちごに触れずにはいられない様子でした、大好きないちごをたくさん食べて、満足。そして手作りのお弁当もたくさん食べて、はちきれんばかりのお腹になって帰りの車内では、すやすやと眠りにつきました。

他のクラスのこども達もそれぞれに楽しい時間をすごせた様子があり、行事を企画できてよかったなとしみじみ心から思いました。あれから2カ月たった今でも「いちご食べたなあ」と



2歳のイクンと思いついています。また行きたいと言ってくれています。

こども達の楽しみが奪われてしまった日常を一日も早く取り戻し、来年こそは子ども達たちの大好きなパパやママも一緒に行けたらいいなあ、この笑顔をみてほしいなあと強く望んだ一日でした。 藤井 寿子



ザリガニさんが やつて来た!



毎日、庭のダンゴ虫取りに夢中の子どもの姿を見て、何か生き物を一緒に育てたいと思いました。カブトムシの幼虫やカタツムリなどの世話をしていた子ども達ですが、今までザリガニを知らず、見たこともありませんでした。ザリガニを飼うことが決まった日から大騒ぎで、生き物図鑑を取り出し、保育者とザリガニのページを見ていました。

最初は、ハサミが怖くて恐る恐る触っていた子ども達、ハサミを振りかざすザリガニに、ケースを揺らしたり、大声で威嚇するなど、雑な関わりになってしまふ場面も多く見られました。その度に「ザリガニさんがびっくりしているから優しくね」と伝え、今では、そつと優しく背中を持って、持ちあげられるようになりました。Sちゃ

んは「見てみて、ザリガニさん触った」と上手に持ちあげ、毎日、ザリガニのご飯あげや水替えを楽しんでいます。子ども達は「ザリガニさん、おひげが長いね。どうしておひげがあるのかな」「ザリガニさん、トンネルのお家の中が好きね」等、ザリガニの居るケースを見ては、観察しています。ある日、R君が「ザリガニさんが死んでる」と、大声で叫びました。急いで見てみると、小さなザリガニが脱皮をしていました。脱皮の意味がわからぬH君は「Hちゃんがいっぱい触ったから、ザリガニさんしんどくなったの、死んじゃったの」と、心配そうにしています。脱皮の意味を説明すると、H君は「えっ、ザリガニさん、お洋服、お着替えしたってこと?」「ザリガニさん大きくなった」と、目を輝かせながらザリガニを見ていました。小さな生き物を育てる中で、日々、子ども達が新しい発見をしていることを嬉しく感じています。何気ない日常の中で自然を感じ、命の大切さや思いやる気持ちをお子で欲しいと願いを込めて、今日もザリガニのお世話を共に勤しみたいと思います。

川本 真美



家庭的体験の一環として、『みんなのおうち』へ遊びに行く日があります。乳児院の近くにマンションの一室を借りており、そこへ子ども2名、担当者2名の計4名で出かけます。子どもたちはその日をとっても楽しみにしています。

待ちに待ったお出かけの日、準備を済ませて「みんなのおうち行くねん!」行つてきます!と元気に挨拶をする日くんとYちゃん兄妹。『みんなのおうち』



「起きたらまた遊ぼうね」と約束し、保育者の側で眠りにつきます。眠たい目を擦りながら目覚め、おやつはホットケーキ。またまた焼き上がりをジッと見守つてお手伝い。さあ、ホットケーキを食べて、その後はまた

「なんかいい匂い」と日くんとYちゃん。キッチンへ見に行くと保育者が野菜を切つたりたまたごを焼いたりしています。「お手伝いする。」と、保育者の隣で腕まくりをして焼きあがるのを楽しみに待っています。お昼ご飯はふたりの大好きなオムライス。好きなだけ食べて満足げな表情です。そしてお腹いっぱいになった次は、お昼寝の時間です。もっと遊びたいふたりは、なかなか寝付けません。「起きたらまた遊ぼうね」と約束し、保育者の側で眠りにつきます。眠たい目を擦りながら目覚め、おやつはホットケーキ。またまた焼き上がりをジッと見守つてお手伝い。さあ、ホット



玩具でたくさん遊びます。片付けと掃除を済ませるとあつという間にもう帰る時間。ふたりも名残惜しそうにしながら保育者と手を繋いで帰路につきます。乳児院に帰つてから、「みんなのおうち行つてきてん!」と嬉しそうにみんなに報告。数日、数カ月経つても、「一緒にみんなのおうち行つたね」「また行こうね」と振り返り、次回を楽しみにしています。

きょうだいに限らず、友達と、保育者と、じつくりと思う存分遊び、家庭的な経験をすると時間は子どもたちにとってとても貴重なものです。みんなのおうちでの経験が少しでも将来への糧となればと思います。

後藤 望美

玩具でたくさん遊びます。片付けと掃除を済ませるとあつという間にもう帰る時間。ふたりも名残惜しそうにしながら保育者と手を繋いで帰路につきます。乳児院に帰つてから、「みんなのおうち行つてきてん!」と嬉しそうにみんなに報告。数日、数カ月経つても、「一緒にみんなのおうち行つたね」「また行こうね」と振り返り、次回を楽しみにしています。

きょうだいに限らず、友達と、保育者と、じつくりと思う存分遊び、家庭的な経験をすると時間は子どもたちにとってとても貴重なものです。みんなのおうちでの経験が少しでも将来への糧となればと思います。

後藤 望美

コロナ禍のリフレッシュステイ事業

子育てリフレッシュ支援事業は、神戸市の子育て支援事業の一環で、保護者の方のリフレッシュや通院、出産、兄弟姉妹の学校行事参加などの際にお子様の一時預かりを行う事業です。日中お預かりするデイサービスと、お泊りで短期間お預かりするショートステイがあり、当院では乳児院本館とは別棟で実施しております。

リフレッシュ支援事業でも、昨年からの新型コロナウイルス感染症拡大に大きな影響を受けました。世界的な感染症の大流行というこれまでに経験したことのない状況の中で、他施設同様に当院でも、お子様をお預かりするにあたっての感染予防対策は試行錯誤の日々でした。職員は体調管理の徹底はもちろんのこと、利用するお子様と保護者の方にも検温と前日と当日の両日の体調確認にご協力を頂いています。また、マスクの出来ない小さなお子様をお預かりすることがほとんどであるため、

居室の換気に留意し、お子様の手や口が触れる保育室の環境、おもちゃの消毒は毎日行っています。小さなお子様の為、遊びの最中に距離を取ることが難しいですが、お昼寝時の距離の確保などできる限りの配慮を行っています。

まだまだ不安な状況が続いていますが、このような状況の中でもお預かりが継続できているのは、何よりも利用者の方のご理解とご協力があつてのことだと日々痛感しております。コロナ禍で人と会うことが制限されている現在、一人で子育てのしんどさを抱え込んでいる方が沢山いるのではないかと思います。そのような保護者の方の少しでも力になればという思いでこれからも感染対策を徹底していきたいと思えます。

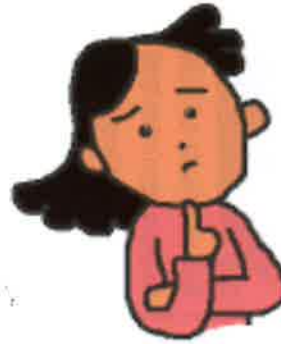
井上 裕子



子育てホットライン(相談専用)

TEL:078-341-6493

年中無休午前9時～午後6時(緊急の場合は夜間も可)
神戸真生塾 子ども家庭支援センター(ロータリー子どもの家)
Homepage <http://www.rotary-kodomoie.org/>
facebook <http://www.facebook.com/rotary.kodomoie>



子育てに困ったら
先ず電話相談!



平成15年に本館の建て替え工事を行ってから早18年。一階にある子ども家庭支援センターロータリー子どもの家のプレイルームは、いくつもの思い出と共に経年変化を見せていました。

プレイルームが
新しく生まれ変わりました!

神戸真生塾子ども家庭支援センター

ロータリー子どもの家

床にできた傷、壁紙やカーペットのシミ。それはたくさんの方々を利用し、楽しく遊んでくれた証のように、良い味を出して刻まれていました。スタッフルームにいますと、子どもたちの楽しそうな声が聞こえてきます。時には「ドン!」という大きな音や、「バタバタバタ!」という走り回る音が聞こえ恐る恐る見にいたり、珍しく静かに遊んでいるなあと思ってしまうと、中高生が本を読んでいると見に行くと、色々な人たちにゆっくりでいたり。色々な人たちにによって様々な空間が作られていました。そんなプレイルームもこのコロナ禍で様子が一変。自由に遊んでもらえる場所として、地域の親子や施設の子どもたちに開放していましたが、感染防止のため一時閉鎖をせざるを得なくなりました。事業も中止となり、時が止まったように静かになった中で、この機会を利用してだいぶ疲れがたまってきていたプレイルームを回復させようと、改装計画に取り掛かりました。内装のデザインや備品の補充、より利用しやすく、より楽しい空間になるにはどうしたらよいか、赤ちゃんから大人まで気楽に遊びに来られるよう、職員で工夫を凝らしました。施工は昨年の2月に2週間ほどで終了し、



山本 まさ

現在では予約制にてたくさんの方々にご利用していただいております。これまでの思い出が浸み込んだこの空間に、また新たに思い出の証が刻まれていくことでしょう。新しく生まれ変わったプレイルームにぜひ遊びに来てください。



オレンジリボン キャンペーン

児童虐待防止推進月間である11月は、全国各地でオレンジリボンキャンペーンが実施されており、当センターでも毎年いろいろな形で啓発活動を行ってまいりましたが、令和3年度は、資生堂社会福祉事業財団からの助成を受け、神戸市内3ヶ所の児童家庭支援センター合同で、より広域に啓発活動を行いました。一般的なオレンジリボンキャンペーンでは、児童虐待の早期発見・対応のための虐待通告電話「189」の啓発が行われていますが、相談支援機関である児童家庭支援センターは、虐待予防の観点から、電話相談「KOB E子育てホットライン」の啓発に力を入れています。令和3年度の啓発活動は、①子ども・子育て家庭支援者向け講習会、②啓発グッズの配布、③車のマグネットシートによる啓発を行いました。

講習会では、神戸市こども家庭センター職員を講師にお招きし、オンラインで「これって虐待!?」学校や園とこども家庭センターとの連携をテーマに開催しました。保育所や幼稚園の保育者や区役所職員、教育委員会スクールソーシャルワーカー等合計23ヶ所の機関よりご参加いただき、虐待が疑われる子どもを発見した際の対応について学び、オンラインではありましたが質問もたくさん寄せられました。

啓発グッズについては、コロナ禍のニーズを考え、「KOB E子育てホットライン」の電話番号を記載したマスクケースを600枚作製し、配布しました。車用のマグネットシートも同様に「KOB E子育てホットライン」の電話番号が入ったものを50枚作製しました。神戸市内を拠点としている生活協同組合コープこうべ様、株式会社共進舎牧農園様、株式会社ニガキ様、魚平様等にご協力を頂き、1カ月間商用車に貼って街中を

活動の様子はコチラをご覧ください



Facebook



Instagram



走っていただきました。その取り組みは、読売テレビにも取り上げられる等、大きな反響を呼びました。

当センターは、これから子どもや子育て家庭をしつかりとサポートしていきたい、たくさんの子どもの笑顔に繋がるように活動を続けたいと思います。オレンジリボンキャンペーン実施に際し、ご支援やご協力いただき誠にありがとうございます。

(久山 啓)



これまで約50名の児童の自立支援に関わってきました。

自立援助ホームの職員として、子どもと自立に必要なことは何かを考え、社会の一員として送り出すための支援を行ってきました。その中でも福祉就労を検討できるくらいに働きにくさや生きづらさを特性として抱えた子どもの担当もしました。大人からの投げ掛けや配慮の理解に難があり、自己肯定感の低さから何度も就労継続が困難になりかけたこともありましたが、必要に応じて行政機関や就労先とも連携協働し、本人と向き合いながら自己決定ができるような支援を行ってきました。

5年間の経験を通して

自立支援ホーム 子供の家



そして、施設退所後もアフターケアとして、日常での入所児童の対応と並行しながら地域で孤立することがないように、定期的な訪問、電話やメールを通じた連絡を絶やさないよう心がけてきました。しかし、子どもへの自立支援に関わる中で、児童へのアプローチだけではなく、保護者やそれを取り巻く環境へのアプローチが必要だと感じました。子どもたちが抱える課題の背景には、児童自身の発達上の特性や周囲の無理解、虐待や生活困窮等、家庭の様々な問題があり、それが社会での生きづらさに繋がっているのではないかと考えました。

原田 純

新任職員紹介

児童養護

足立 美優



〔趣味〕 音楽を聴く事

〔特技〕 手作りアルバムを作る事

〔抱負〕 笑顔と元気を大切に、

子ども達と一緒に楽しい時間を
を沢山過ごせたらいいなと
思っています。一生懸命、頑
張りますので宜しくお願い致
します。

大山 望恵



〔趣味〕 映画・舞台鑑賞

〔特技〕 ギター・ソフトテニス

〔抱負〕 自身未熟者ですが、
一緒に働く先輩や同期、そして
子ども達の為に頑張ろうと
強く思います。ご迷惑をかけ
ることも今後あると思います。
ご指導ご鞭撻お願いします。

乳児院

戒能 そのか



〔趣味〕 アニメ、食べる事

〔特技〕 卓球

〔抱負〕 子どもとの関わり、ふ

れあいを大切に、信頼関
係・愛着関係を築けるよう
に努めます。子どもと関わ
る仕事が出来て嬉しく思いま
す。感謝の気持ちをもって働
きたいです。

鳥井 七海



〔趣味〕 音楽鑑賞

〔特技〕 ソフトボール

〔抱負〕 子ども達が安心して過
ごせるよう愛をもって関わっ
ていきたいです。共に成長を
喜び、信頼関係を築いていけ
るよう精一杯頑張ります。よ
ろしくお願い致します。



田村 光暖



〔趣味〕 音楽を聴く事・ライブ
に行く事

〔特技〕 手芸

〔抱負〕 子ども達一人ひとりと

丁寧に関わっていきたくと思
います。一人前の保育士にな
れるよう、精一杯頑張ります。
どうぞよろしくお願い致しま
す。

岩本 杏奈



〔趣味〕 辛いものを食べる事

〔特技〕 早起きをする事

〔抱負〕 日々、子ども達の成長

に驚くとともに、その瞬間に
関われることを嬉しく思っ
ています。今後も笑顔忘れず、
日々精進していきますので、
よろしくお願い致します。



斎藤 直子



〔趣味〕 愛犬と自然遊び

〔特技〕 リサイクル野菜の栽培・
残り物料理

〔抱負〕 ご縁あって18年ぶりに

戻って参りました。費やした
年月の分、子育てひろばでの
職務経験を活かして、皆様の
サポートができるよう頑張り
ます。よろしくお願い致しま
す。

保育園

松ヶ瀬 美紀



〔趣味〕 散歩

〔特技〕 すぐ寝られる

〔抱負〕 子どもたちが毎日のび

のびと笑顔で活動できるよう
にしていきたいと思ひます。
慣れない事も多いですが精一
杯頑張ります。子ども達と一緒
に成長していきたいと思ひてお
ります。

自立援助ホーム

酒井 雅子



〔趣味〕 マスク作りなどの簡単
な手芸

〔特技〕 車の運転、料理

〔抱負〕 児童養護での経験や、

今までの数々の社会経験を活
かしたいと思ひます。自分自
身の仕事の集大成となればと
思っています。「明るく元氣
に爽やかに」をモットーに頑
張ります。

小橋 諒子



〔趣味〕 旅行

〔特技〕 刺繍

〔抱負〕 子ども家庭支援セン
ターで、お子さんやご家族に寄
り添いながら、日々関わる事が
できればと思ひています。どう
ぞよろしくお願い致します。

ありがとうございました

寄付並びに児童招待の皆さま

敬称略・五十音順
(二〇二二年一月一日～二〇二二年十二月三十一日)

寄付金

- 安西真由美
- 石井幼稚園
- 伊藤千景
- 稲垣宜子
- 植原美奈子
- 上杉徹
- NPO法人 B&F神戸真生塾支部
- 内山洋子
- 大江慎一・由紀
- 大社貴子
- 大島福美
- 沖野世津子
- 奥村忠一
- 数田紀久子
- 学校法人松陰女子学院
- 加渡
- 角島マサコ
- 家庭養護促進協会
- 糀谷博
- 河村理英子
- 関西学院教活動委員会
- 倉石哲也
- 神戸栄光教会社会委員会

- 神戸聖愛教会 女性会
- 神戸教会しみず幼稚園
- 神戸女子学院チャブレン室
- 神戸女子大学
- 神戸市教職員組合
- 神戸市乳児院連盟
- 神戸ポートワイズ
- メンズクラブ
- 後藤恭子
- 司法書士
- 村上明貴子事務所
- 鳥井順子
- 鳥京
- 日本児童養護施設財団
- 清水美香
- 頌栄幼稚園
- 真生きらきら保育園
- 自立援助ホーム職員一同
- 菅根信彦
- 住元義則・淳子
- 捜真学院
- 第一生命
- 高尾華工房 人見明美
- 高森紀子
- 玉川聖学院
- 東崎宏紀

- 東洋英和文学院
- 中高部 宗教委員会
- 時岡三恵
- 友藤喜久子
- 永井るつ子
- 中村淳子
- 名古屋学院
- 難波美智子
- 西川忠男
- 日本キリスト教会
- 西宮中央教会
- 日本キリスト教団 神戸教会
- 神戸教会教会学校
- 日本キリスト教団
- 天満教会あしなが会
- 日本聾話学校
- 乳児院職員一同
- 認定こども園頌栄保育園
- 根本志保
- 橋本明
- 橋本美記代
- 林りえ
- 濱啓子
- 濱田栄二・理恵
- 廣瀬加恵
- 福島弘子
- 福田加奈
- 藤井祥子
- 藤井秀彦
- 細見英信
- 宮永公子
- 民谷清

寄付物品

- 綿谷栄子 (カワタリ電設)
- 養護職員有志
- 若林孝典
- 渡邊智明
- 阿波圭子
- 淡路 八百屋
- 魚平
- 内田三枝
- 大社貴子
- 岡野英夫
- 小鯛竜也
- 門脇明彦
- (株)アシックス
- (株)ナカ建商
- (株)バーニーズジャパン
- (株)フレールベル館
- 協同食品株式会社
- 共進舎労働組合
- 黒田英津子
- 神戸教会
- 神戸昇天教会
- 神戸女子学院
- 神戸ポートワイズ
- メンズクラブ
- 神戸らーめん第一旭
- 後藤恭子
- (財)神戸市学校給食会三宝
- 佐保山伊津子

- 島田千里
- 公益財団法人 日本教育公務員弘済会
- サーフ縁FC
- 神東社
- 神果神戸青果(株)
- 全国シヤンメリー協同組合
- ダンス ヒデ
- チュチュアンナ
- 中筋達哉
- ニガキ
- 日仏商事(株)
- 日本鏡餅組合
- 日本ベビーフード協議会
- 橋本愛実
- D&G
- ヒキタ青果
- ヒデ
- 平野正敏
- 広瀬俊道
- フィリップモリス
- Federal Management(株)
- 福原商店
- 藤尾はるみ
- ふる里
- 母子保健推進会議
- マークラー神戸
- まほろば
- 水江香織
- 見目敦子
- 明治
- 門司一徹

ボランティア

- リプレット基金事業財団
- ロヘラスミット
- 山本敬子
- 吉田商店
- 吉田真弓
- ワールドメイト

一般財団法人

みらいこども財団

サーフ縁FC(釣り招待)

グループR

(絵本読み聞かせ)

廣田周子(ピアノ)

高橋ひとみ(絵画教室)

岩村好範

クリーンサービスポット

神戸(床掃除・磨き)



幼保連携型認定こども園 真生きらきら保育園

めろんぐみ (5歳児)

新年を目前に、めろん組での残りわずかな生活に、進学が近づく期待や喜びと少しの寂しさを感ずるようになってきました。そんな思いとは他所に、子どもたちは「このあそびやりたい」「こんなことしてみない?」「これ作ったらたのしそう」と遊びのアイデアを次から次へと出し、あそぶことに大忙しの様子です。

12月11日(土)はクリスマスプレゼントをまもらしました。当日は、緊張しながらも自信を持って自分のセリフを言う姿があり、一人一人の成長を感じる素敵な時間となりました。聖誕劇を進めるにあたって、「楽しいからもっとやりたい」「明日は〇〇をがんばりたい」という子どもたちから生まれる気持ちを尊重してきました。そんな子ども一人一人の個性が混ざり合うと、自然とお互いの頑張りや認め合ったり、意見しあうことで改善しようとしていたりしていました。そして「仲間と作り上げる楽しさ」を感じているようでした。これからも、み

んなで合わせることの難しさや達成感、心地良さを存分に味わい、豊かに表現あそびを楽しんでほしいと思います。

頼光彩子・岡本拓馬

1・5歳児お散歩



ももぐみ (1歳児)

保育園中がクリスマス一色になった12月。もも組でも、『ジングルベル』や『赤鼻のトナカイ』『あわてんぼうのサンタクロース』などのクリスマスソングを歌ったり、サンタクロースの制作をしたり、クリスマス絵本を読んだり、身近にクリスマスを感じながら過ごしました。中でも子どもたちはクリスマスソングが大好きで、「今日は何を歌おうかな」と声をかけると、「シャンシャンシャン!」「リンリンリン!」と歌の一節でリクエストしてくれました。

そして音楽が始まると、体を揺らしたり手拍子をしたりしながら元気な声で歌い、時にはみんなでタンバリンや鈴を鳴らし、にぎやかで楽しい演奏会をしました。

クリスマス会の前には、めろん組のお兄さん、お姉さんが取り組んでいる聖誕劇を見に行きました。いつもとは違う静けさと厳かな雰囲気の中、もも組の子どもたちも真剣な表情でクリスマスのお話や讃美歌に耳を傾けていました。

0歳児 クリスマス制作



大北 春菜
松ヶ瀬美紀
請川まり子

行事とこども

園長 橋本美記代
令和3年度は、コロナ禍2年目の保育でした。感染予防に十分に気を付けながらの保育の継

続でした。子どもたちの安全な環境を整えながら、子どもたちが笑顔で過ごせる保育を工夫するようにしました。中止になった行事もありましたが、子どもたちが楽しく経験できる行事内容を検討しました。

クリスマス礼拝は5歳児のみの参加となりましたが、めろん組16名の子どもたちがそれぞれの役をしっかりとやり切ることができました。予行練習では、小さいクラスの子どもたちは、聖誕劇をとて静かに見て、讃美歌を覚えて歌っていました。

保育園ならではの異年齢の子どもたちと生活する中で身につくこともたくさんあります。クラスの行事の為、子どもたちはお互いの様子がよくわかり、予行練習の後は「〇ちゃん、今日は大きな声で言えたね」と声をかけたり、初めて衣装を着けた日は、「〇くん、よく似合ってるよ。」と衣装のことで褒めたりする姿が見られました。まだまだ自分のことで精一杯な子どもたちですが、お友だちの様子に興味を持ち、みんなで行事に取り組む姿には職員も感動しました。一つの行事を経験してまた成長した子どもたちの表情は満足気でした。

神戸真生塾苦情処理委員

- 苦情受付担当者 久山 啓 (子ども家庭支援センター
ロータリー子どもの家センター長)
- 川本 真美 (乳児院 真生乳児院 家庭支援専門員)
山口 幸久未 (真生きらきら保育園 主幹保育教諭)
有吉 みはる (神戸市立自立援助ホーム子供の家主指導員)
上杉 徹 (児童福祉施設 神戸真生塾 施設長)
- 苦情解決責任者 紀久子 (乳児院 真生乳児院 院長)
橋本 美記代 (保育所 真生きらきら保育園 園長)
竹原 裕昭 (神戸市立自立援助ホーム子供の施設長)
岡部 正彰 (当法人監事)
- 第三者委員 中村 悦子 (主任児童委員 中央区山手地区民生委員児童委員)
- 苦情受付件数 令和3年1月から12月末まで 1件

編集後記

昨年10月に長年神戸真生塾を先頭に立って導かれた富川和彦前理事長を神様のものにお送りすることになりました。震災後の建て替え、保育園の立ち上げ、自立援助ホーム・子育て支援センターの指定管理の受託。そして小児科診療所を中心とした別館建築と時代の移り変わりと共に子どもと家庭を取り巻く環境の変化に対応すべく法人を導いてくださいました。深く感謝申し上げます。

神戸真生塾 施設長

上杉 徹